

立ち位置を確認する「数字」とその先の「分かれ道」

3年生が共通テストを終え、いよいよ二次試験にむけて出願先の決定をしようというところですが、自己採点後の判定で「A」をもらえる人は限られており、多くは「C」や「D」という判定に悩まされます。共通テストと二次試験の配点比率にもよりますが、いろんな大学を眺めてみると、CやDでも合格している人はしている。逆に、Aでも不合格になっている人もいます。

右の例は、家から通える「ある国公立大学」の「ある学部」のデータです。左列にはA～Dの判定をもらった人の数、右列には、昨年度それぞれの段階値で合格した人数と不合格だった人の数が示されています。【共通テスト：二次試験】=500:400で少し共通テストの配点比率が高い学部です。これを見ると、同じ「C」判定でも昨年はチャレンジして合格した人が17名、「D」判定で合格した人が3名、「E」が1名いることがわかり、合格者の半分弱がC,D判定だった人です。もちろん、挑戦者全員が成功したわけではありませんが、数字は示しています。アルファベットの判定をもらった後の選択が同じではなかったことを。また、倍率をみると、実際に出願した人や受験した人は、判定結果の時から随分減っていることもわかります。よく「後悔のない選択を！」と言いますが、多くの場合、何を選ぼうと多かれ少なかれ後悔が頭をよぎります。あるのは「後悔」が「結果オーライ」になるように生きることだけです。（データ元：『ベネッセ全国版冊子度数分布』）

得点	今年		昨年度倍率 1.8	
	今年	昨年	合格	不合格
450				
445				
440				
435				
430		2	1	
425				
420	1			
415	3	3	1	
410	4	4		
405	6	5		
400	7	9	3	
395	10	10	2	
390	A 11	13	A 2	
385	15	20	5	1
380	18	30	3	2
375	B 21	40	B 4	3
370	27	51	7	1
365	33	54	3	2
360	C 40	72	C 7	5
355	48	83	2	
350	58	88	1	
345	D 73	92	D 1	1
340	87	107		2
335	100	126	1	2
330	106	137		1
325	116	148		1
320	127	162		3
315	136	172		1
310	142	179		

1, 2年生も今からこのようなことを知っておいてください。入試本番でも判定と合否には「絶対」はないと言えるので、模試の判定をみて早々諦めるのは勿体ないです。共通テストの得点率が50%前後でも国公立の合格を掴んだ先輩もいました。前向きに、じっくり攻めましょう！（文責：桑原）

♪3年の窓♪ 「本当の戦いはこれからだ！」～卒業後の皆さんへ～

共通テストが終わり、一般受験の人はいよいよ本番が始まりました。この段階まで来ると、できることは「いかに効率よく、たくさんの実践問題を解くことが出来るか」だけです。これまで学習してきたことを思い出しながら、自らの進路実現のために必要な勉強を、妥協することなく行ってください。共通テストは「時間との戦い」でしたが、記述試験は「自分の力をいかに発揮できるか」が重要です。共通テストの結果と、様々なところから出されている判定結果に一喜一憂している場合ではありません。この1ヶ月は、これ以上勉強できないというくらい頑張りましょう。どのように過ごしたとしても、タイムリミットは平等にやってきます。たくさん汗をかいて本番を迎えるのか、ぼーっとして気づいたら本番なのか、選ぶのは自分次第です。さて、受験の話はこれくらいにして、今回は卒業後についてもお話ししたいと思います。

高校卒業は、新しい生活の始まりです。多くの方が、今までとは違う生活を送ることになります。例えば、東京や北海道など、全く新しい土地で生活を始める人もいるでしょうし、就職して働き始める人もいるでしょう。期待と不安が1つになって、落ち着かない日々が続きます。県外の大学に通うなら、一人暮らしをする必要が有るかもしれません。これまでできなかったアルバイトをしたり、自動車の免許を取って遠くへ出かけたりすることもあるでしょう。高校卒業後は、出来ることがたくさん増えますので、是非とも色々なことにチャレンジして思い出を残して行ってください。（先生は友達とゲームか麻雀をしていた記憶しかありません…）一方で、やるべきことも増えていきます。当然ですが、大学には遊びに行くわけではありませんので、高校よりもさらにハードな学習をして、4年時には研究結果を示す必要が有ります。高校までは、学習や生活について先生に注意を受けていたかもしれませんが、大学の先生はそんなことはしてくれません。怒られなくてラッキーと思って、課題を出さなかったり、授業を受けなかったりすると、気づいたら進級や卒業ができなくなっているかもしれません。

これからの皆さんに必要なのは、自分の行動に責任をもつということです。だらしない人やなんでもいいやと考えるいい加減な人は、絶対に苦労します。メリハリをつけてやるべきことに取り組んでください。皆さんが、後悔することなく、様々なことにチャレンジして、楽しく充実した生活を送れることを祈っております。（文責：水口）

♪2年の窓♪ あけましておめでとうございます ～「1年」の幕開け～

2024(令和6)年になりました。皆さんは、気持ちを新たに勉強・部活動・生活に向かっているでしょうか。パレスチナ問題、ウクライナ侵攻、そして能登半島地震の報道を見聞きする中で、今現在の生活が当たり前ではないことに気付いていると思います。このような「非日常」から目を背けてはいけない、ということは誰もが頭では理解していることです。しかしながら、人間が「非日常」に直面すると一当事者は勿論、報道に触れるだけで、ストレスが蓄積されて不安な気持ちになるため、本能から直感的に「非日常」を避けようとするとのこと。

2年生の皆さんにとって、この「1年」は、間違いなく「非日常」となります。それは、3年生の先輩方が書いた「令和6年大学入学共通テスト」受験報告書を読んだ皆さんであれば、重々承知しているかと思います。「共通テスト」が明けた翌日に書かれたこの貴重な資料は、読む者の心に迫るものが多くありました。これを提示するために打ち込んだ張本人である私へのダメージもかなりのもので、これを2年生の皆さんに読んでもらいたい(アドバイスを役立てて欲しい)という思いと、読んでもらいたくない(恐怖心が勝るのではないか)という思いが、せめぎ合っておりまして。しかしながら、進路指導部という立場、そして確実にやってきている「非日常」(戦争や地震に関しては未知数な部分も多いです)を直視する必要があるだろうと判断して、前者を優先しました。

さてどうなるか、と思っていましたが、Classiを見ても、直接声を聴くなかでも、皆さんからは少しの恐怖と、大いなる「覚悟」が見て取れました。眼前のやるべきことをクリアしながら、最終目標を見据えて努力を重ねる。このような「覚悟」の最大公約数は、単純なようで、この集団なら大丈夫だ、そう感じさせるものでした。2月は、前半の「ゼミ発表」と、後半の「学年末考査」があります。正に、2年生としての総決算です。これらを乗り越え、3年生へ向かいましょう。ようこそ「非日常」の世界へ。長いようで短い「1年」の幕開けです。《文責:奥田》

♪1年の窓♪

さて、1年生も残すところあと2ヶ月。皆さんにとって多治見高校での1年間(あと少しありますが、、、)はどのようなものでしたか?充実した日々を送れた人、思っていた高校生活とはちょっと違うなと感じた人、いろんな感じ方があると思います。しかし、今一度よくよく頭に刻んで欲しいことは、自ら多治見高校を選んで入ってきたということです。もしかしたら、「人に言われたから」、「ここしか入れるところがなかったから」、など異論がある人もいるかもしれませんが、結局最後を選択したのは自分自身です。どんな経緯をたどったとしても、今ここにいる自分と、自分の将来を大切に考えて最善の選択をし続けていってくれることを願ってやみません。人は常に他人と自分を比べがちです。しかし、自分の人生を生きるのは自分でしかありません。自分の人生をより良くするのも、つまらないものにするのも、自分次第です。将来に向けて、自分がどうするのが最善か、今改めて自分に問いかけてください。さあ、今年1年どんな年にしますか?1年の始まりは、目標を設定するにはいい時期ではないでしょうか。4月の「さか草」で吉田先生が、目標設定について書かれていました(以下に引用)。

1. 小目標、中目標、大目標とスモールステップで目標を立てること。

⇒例)小目標・・・週の目標 中目標・・・月の目標 大目標・・・半年、一年の目標 という具合に達成したい目標までの道のりを細分化すると、無理なくでき、修正しやすいからです。

2. 80%の力でこなせる目標にすること。

⇒100%の力で達成できる目標は、途中でしんどくなり、目標達成まで続かないからです。

毎日の小さな習慣の積み重ねで未来は変わります。少しずつ、できることからコツコツと・・・。

先日3年生の先輩方が共通テストを終えて、1年生に向けてのコメントを残してくれています。先輩方の生きた声を参考に、また、1年生での生活を振り返り、新たな目標を設定しましょう。皆さんにとって印象深く、すばらしい一年となりますように・・・今年もよろしくお祈りします。 (文責:紀平)